

## 第10回 杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会会議録

会 議 名	第10回杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会
日 時	令和元年11月1日（金）午前10時00分～12時00分
場 所	富士見丘小学校 特別活動室
出 席 者	懇談会委員18名（欠席6名）
傍 聴 者	2名
次 第	1 開会 2 前回懇談会の主な意見 3 基本設計について 4 今後のスケジュールについて 5 閉会
資 料	資料1 第9回懇談会の主な意見等 資料2 基本設計（素案）の考え方 資料3 基本設計（素案） 資料4 ラーニングセンター（図書館）について 資料5 今後のスケジュール（予定）

進行役	<p>皆さん、おはようございます。本日は第10回富士見丘小・中学校改築検討懇談会にご出席いただきましてまことにありがとうございます。本日も会議時間は2時間程度を目安に進行したいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>（欠席者・遅刻者についての連絡）</p> <p>それでは、配付資料の確認等を事務局からお願いいたします。</p>
学校整備課長	<p>私、学校整備課長からお話をいたします。</p> <p>配付資料は5種類ございます。</p> <p>（配布資料の確認）</p> <p>もしない方がいれば、事務局にお知らせいただければお渡しいたします。</p> <p>委員の皆様にご確認いただいた、前回7月懇談会の会議録を席上に配付しておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>私からは以上です。</p>

進行役	<p>それでは、議題に入ってまいりたいと思います。次第の2として、前回懇談会の主な意見についてご説明をお願いいたします。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>資料1をご覧ください。7月25日に行いました、前回第9回懇談会の主な意見等を振り返りでご紹介いたします。</p> <p>前回は、まず全体のアプローチ・ゾーニング計画を4案お示しして、ご意見をいただきました。それについては児童生徒、地域住民の出入り口として東西軸にサブ動線を設けるという、前回4案示したうちの第2案が合理的ではないかというご意見をいただきました。</p> <p>たくさんの意見をいただいたのはラーニングセンターについてでした。</p> <p>小・中別々のほうがよいのではないかと。あるいは、別々でも読み聞かせなどは運用の中でできるのではないかと。和泉学園については小学生に見せられない中学生の本もあるということ、管理面で課題があると聞いていますというご意見。それから、小・中で共用することで読書の時間を十分確保できるのか心配だということ。ラーニングセンターには自習スペース、居場所としても機能している部分があるので、そのほかに個別学習室など静かな環境の部屋があるということであれば、一体型でも問題ないのではないかとご意見。一体型でも管理、運用面での工夫でカバーできるのではないかと。夢のある魅力的なスペースで期待できるのではないかと。路上橋とうまく連動させることも考えられるのではないかとご意見。それから広いラーニングセンターがあれば、学年単位の総合的学習ができるため便利ではないかとご意見。メゾネット型などにするにしても、落下防止等安全面をしっかりとってほしいということ。それから、これは高見澤先生からだったと思いますが、他区の事例なども調べて具体的に検討したらよいのではないかとご意見をさまざまいただきました。</p> <p>プールについてです。前回の資料では、屋上に小・中1つの大きなプールというたたき台でしたが、それについては水深の調整に時間がかかる。あるいは中学生も一緒になるということだと、水深の調整の時間等あるので授業時数の確保が難しいのではないかと。</p> <p>また、中学生の場合は男女別にグループ分けをするため、そこに小学校も1グループ入って3グループを同時に行うことになると、声が錯綜することもあるので運用上難しい面があるのではないかとご意見をいただきました。</p> <p>その他としては特別教室の授業時数の確保をしっかりと考えて、独立すべきは独立したほうがよいのではないかとご意見等をいただいています。</p> <p>資料1の説明は以上でございます。</p>
進行役	<p>では、今ご説明いただいた件に関してご意見・ご質問等がありましたら、お願いいたします。よろしいですか。</p> <p>それでは次第3、基本設計について事務局から説明をお願いいたします。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>続いて、次第3の基本設計です。前回の懇談会ではアプローチ計画、ゾーニング計画ということで4つの案をお示しして、第2案でご了承いただいたと考</p>

	<p>えております。</p> <p>この第2案の主なポイントを3つ挙げると、1つは小学校・中学校の昇降口を二敷地の間にある区道——スクールモールと言っていますが、このスクールモール沿いに対面で配置することで、小・中の自然な交流を促すとともに通学の動線を整理すること。</p> <p>2点目といたしましては、小学校棟の1階に東西を貫通する通路上のピロティ空間を設け、災害時・イベント時の小学校・中学校、あるいは高井戸公園までを含めた連携をしやすくするため、東西方向のサブ動線を設けたこと。</p> <p>3つ目としては、学童クラブについて。小学校棟の北側に配置するという点ですが、育成室の採光はしっかり確保した上で、北側の傾斜地は子どもたちの遊び場としても活用するという点で北側の配置をする。この3つのポイントで第2案をご了承いただいたと思います。</p> <p>今回はこの大きなゾーニングの考え方に沿って、この間学校とも何度もやりとりしながら設計を詰めてきました。基本設計として一旦取りまとめて、今回資料としてお示しします。</p> <p>今後は、1月ぐらいに地域の方への説明会を行っていきますので、今日お示しする設計案をベースとして、そろそろ固めていく段階にある状況でございます。今日はいろいろチェックする部分も含めて、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、資料2と3を一括して設計会社から説明いただきたいと思います。</p>
設計事業者	<p>それでは、お手元にお配りしています、A3判の横使い、カラーの資料2をご覧ください。</p> <p>改築基本方針の3つのビジョンを上に掲げていますが、それに対して6つの目標が定められています。そこから取り組むべきテーマが与えられております。その取組に書かれたテーマに対して、基本設計ではどのように対処したのかを検証したのがこのシートでございます。それぞれの取組に対して提案という形で、今回の基本設計で何を考えたかを全て当てはめているのがこのシートの構成で、検証するのが目的でございます。</p> <p>このシートは、今回私の説明がプランまで全部終わった後にもう一度目を通していただくとその内容が具体的に、よりよくわかるものですので、ここでは幾つかかいつまんでご紹介いたします。</p> <p>それでは最初に目標Ⅰ、ピンクのところですが「多様な学び・活動の場と質の高い学習環境を備えた学校づくり」への配慮ということですが、さらなるテーマとして、取組の③を見てください。集中して学習できる自習スペースの充実を求めています。それについてラーニングセンターを設け、その内部に自習コーナーとして活用できる閲覧室を設置することで対応しますと回答をしております。</p> <p>次は目標Ⅳです。「高井戸公園等の良好な周辺環境と調和した学校づくり」への配慮です。さらなるテーマとして、取組①をご覧ください。「みどりあふれる</p>

良好な環境の積極的な活用」を求めています。その対応としまして、小・中学校の全ての普通教室を南向きにして自然採光を取り入れることとし、小学校では屋外テラスを公園側に向けて眺望を確保することで対応しますと回答しています。

続きまして目標Vでは「小学校・中学校の一体的な整備の利点を生かすとともに、将来に渡って使い続けられる柔軟で効率的な学校づくり」への配慮についてさらなるテーマが取組②で、一部の教室を小・中で共有し、ラーニングセンターや家庭科室を小学校に置いて、共有・利用します。さらにプールでは、小学校高学年は中学校のプールを利用するという対応をいたしました。

このような形で、それぞれの取組というテーマに対して提案という形で基本設計で回答しております。

資料2については、一旦ご説明を終了します。

引き続き、資料3に移ります。

最初は配置図です。大きな骨格のおさらいです。図の左側が小学校、右側が中学校ですが、小学校の北側に学童クラブを配置しています。そして、学校給食用の厨房設備のある給食室を南側に配置しています。

学童クラブのある場所は北側傾斜地になっており、ここを遊び場に利用することが可能になります。特にアリーナの位置をどこにするか考えた場合、南側のゾーンに普通教室を持ってくると、ブルーで示した体育館をどこに置くかかなり限定されます。

逆に、学童クラブを南側に持って来ますと、アリーナへの移動が長くなりまして日常的な使い勝手が悪くなるということがありますので、北側の緑に示した場所に学童クラブを置くことにいたしました。

昇降口は黄色で示した部分です。この昇降口の脇に主事室を置き、職員室をさらに奥に置いて管理ゾーンを形成します。ここで特徴的なのは、ピロティという半屋外空間を建物1階の東西に通したということです。日常的には、児童が昇降口から多目的広場に遊びに行く近道になるので、頻りに利用する部分となります。

時間外や休日では多目的広場の利用や、アリーナの利用に役立っています。時間外や休日では、下半分の学校部分は容易に閉鎖することができます。また、ピロティと同じ位置に動線を中学校側にも延長し、東西を結ぶサブ動線をつくります。このことで、災害時には学校の多目的広場と中学校の校庭やアリーナをつなぐ役割を果たし、相互の連携を高めることができます。

今回の敷地の特徴として、道路を挟んで小学校と中学校が並行して立つ特徴を生かすことが大切であると考えました。そこで、この道路を「スクールモール」と名付けて、小学校・中学校、さらに地域とのコミュニケーションが活性化する場として捉え、計画を図りました。道路は拡幅し歩道が設置されますが、敷地内でもさらに歩道を広げ、安全性を高めます。

小・中の昇降口を対面させているのもその例です。小学校のアリーナや、中

学校の多目的室兼交流室はスクールモール側に面して配置し、内部の活動の様子をうかがい知り得るしつらえとすることで、まちのにぎわいを創出し、さらに地域の監視の目を生かすことへつなげ、防犯上の安全性も高めます。

中学校の校庭はできるだけ広く確保し、現状より広くします。150メートルのトラックや、硬式テニスコート2面を確保します。また小学校の多目的広場には、120メートルのトラックとサッカーコートを計画します。北側には遊具を設置して、時間外では学童クラブでも利用しやすいよう工夫しています。

次に1階のプランをご覧ください。図面を縦にして見ていただけると見やすいと思います。図面の下に凡例がついておりまして、管理がオレンジ、廊下が薄い黄色、昇降口が濃い黄色、アリーナや体育館がブルー、学童クラブが紫、倉庫がグレー。給食室が濃いピンクになっております。

まず小学校です。児童は正門から昇降口を入れて、ホールにある階段を上がって2階の教室へ向かいます。昇降口の脇に主事室があり、人やものの出入りを管理します。職員室はロビーの奥にあり、校長室や事務室、保健室と並んで校庭側に配置し、校庭である多目的広場が容易に監視できる位置に計画します。

職員室と昇降口の間は、倉庫や印刷室を配置し、管理ゾーンの支援を行うゾーンとします。

給食室は南側とし、その西の角を食材の検収室とし、食材を運ぶ車をとめるスペースを確保します。各教室の給食用カートは、準備が終わると配膳室から階段脇のエレベータを使って各階の配膳室に入り、給食を運びます。

ピロティを挟んで上の北のゾーンは、地域開放を想定したゾーンとなっています。学校支援本部や開放会議室が地域用の玄関を使って直接利用できるよう、利便性に配慮しています。アリーナも同じ入り口で、守衛室の前を通過しての利用となり、セキュリティの面でも管理しやすくしております。

一番奥の紫の部分が、学童クラブになります。玄関は単独でスクールモール側に設け、児童は昇降口から一旦出ますが、敷地内を通過して安全に学童クラブに行くことができます。内部は4つの育成室から構成され、可動間仕切りで仕切るため、そのときの利用形態で大きさを変えることができる計画となっています。

また、アリーナがあいている場合は廊下から直接入ることができ、使いやすい施設となっています。アリーナの多目的広場側には防災倉庫を配置し、災害時にアリーナや多目的広場に救援物資を配給しやすくしました。

次に中学校ですが、中学校の1階については昇降口を小学校の位置と合わせて、お互いの存在を意識しながら独立性を保つ小・中の一体的整備に配慮した配置としました。

生徒は、昇降口を上った先にあるホール脇の階段を使って各階に上がっていきます。中学校でも2階以上の普通教室を南側に配置すると、アリーナの位置どりがスクールモール側と校庭側に限定されますが、災害時を考えてアリーナは校庭側とし、東西軸であるサブ動線を介して校庭や小学校の多目的広場と連

携し、つながる計画とします。

また、平常時の時間外の地域開放ではサブ動線からの利用でセキュリティを区分しやすくします。アリーナは多目的に使えるように武道やダンス、発表会に対応する十分なステージを確保します。多目的室兼交流室は地域開放ができるよう1階に配置し、生徒もさまざまな活動に使えるよう生徒用の更衣室を近くにおいて、着がえを伴う場合でも利用しやすいようにしました。

図面下の南側は管理ゾーンで、校庭側に保健室と職員室が面し、学生の安全管理がしやすい配置としました。教育相談室は来客用玄関の近くに置き、父兄のプライバシーを気づかいました。

次のページは2階になります。黄緑色は普通教室などの教室です。黄色は特別教室です。最初に小学校ですが、中央にラーニングセンターを置きました。昇降口を上がった児童は、作品保管庫脇に上がっていきます。2階の児童は、ここから薄い黄色で塗られた廊下に沿って各教室に向かいます。また、3階に向かう児童はラーニングセンターの中を通過して、さらに奥の階段を使って上の階に上がります。

普通教室は、3クラスの学年単位でまとめます。西側の高井戸公園側に開いたくし形のプランとします。この開いた部分を屋外テラスとして、公園の眺望を楽しみながら遊べる校舎とします。音楽室や図工室は地域開放時に住民が利用しやすく、学校も管理しやすくするために、普通教室と分けたゾーニングを考えます。

右上の図が、地域開放エリアと特別教室エリアを分けるセキュリティラインを示したものです。赤線で区切ったところが、地域開放エリアとそのほかの学校エリアということで示しております。

画面に拡大しておりますが、明快な一本のラインで特別教室エリアと開放エリアと学校エリアが分けられ、管理上もセキュリティラインがしっかりしていますので、安心した利用が可能になります。

続きまして、1階の学童クラブと近接させて2階北側に多目的室を設置しました。ブルーで示しているところです。ここを多目的室にしておりまして、放課後等居場所事業の拠点として、児童が移動しやすく、運営側も管理しやすい配置としております。

中学校は、2階以上はアリーナに接したL形の配置になります。南側に普通教室と進路指導室、西側に特別教室の美術室と音楽室を配置しています。学校支援本部は個別指導室の脇に置き、連携がとりやすい位置としました。昇降口からも近く、地域の方にもわかりやすくしました。

続きまして3階になります。中央部にラーニングセンターと小・中学校を結ぶ渡り廊下を近接させて、中学校からも利用しやすい並びとしました。中学校では理科室を2つ並べ、授業での調べ学習をしやすくしました。ラーニングセンターの一部は放課後に自習室として利用できる閲覧室を設け、生徒の居場所づくりに役立てます。

	<p>理科室の前に多目的スペースであるランチルームを置き、学年単位の授業や集会、発表など、さまざまに使える設備も備えます。また、ICTを利用できる環境を整え、調べ学習ができる場をつくります。</p> <p>小学校の少人数教室や中学校の英語教室は教室に転用できる機能を担保させ、学級数が増えた場合には教室に変更し、柔軟に対応いたします。</p> <p>続きまして次ページ、最後に小学校の屋上と中学校の4階です。小学校の屋上に低学年から中学年が利用する専用のプールを設置します。大きさは18メートル×10メートルとして、大きなプールから受ける圧迫感を和らげます。同時に縮小したプールとすることで、同じ大きさのプールを2つ持つ不合理さを解消します。</p> <p>屋上は空調設備の室外機や電気の受変電設備、自家発電機などを置きます。残りの部分は、屋上緑化を施します。</p> <p>中学校ですが、4階に専用の25メートルプールを設置します。ただし、小学校の高学年も一緒に利用できるようにし、小・中での施設の共用化を図ります。</p> <p>以上で、平面プランの説明を終わりにいたします。</p>
<p>教育施設計画施設担当係長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私から補足ですが、最後に話の出たプールについて、冒頭に紹介したように前回お示したプランや、25メートルプールを2つ設けるなど、さまざまなやり方が今回考えられましたが、小学校の低学年・中学年になりますと25メートルを長辺方向に使うより、水になれるとか、浮いてみるといった使い方が多くなりますので、水位の調整の時間や光熱水費の問題などを考え、むしろ一回り小さめで浅いプールのほうが小学校低学年等には使いやすいのではないかと、プールについてはメインの25メートルプールを中学校棟の上に置いて、サブプールという形で少し浅めで小さめのプールを小学校棟の上に配置して、小・中一体化の効率化の面も含め、このような形で配置しました。</p> <p>前回ご指摘いただいた授業時数は確保できるのか、安全管理上問題がないのかというところを学校ともしっかりと相談し、最終的にはこのような形でまとめました。</p> <p>続いて資料4、ラーニングセンターに話を進めていきたいと思います。前回の主な意見でもご紹介したとおり、ラーニングセンターについてはさまざまなお意見をいただきました。それから、ほかの事例などについても実証的に検証してみたほうがいいのではないかとのご意見もいただきましたので、昨年度第2回の懇談会で視察に行った和泉学園と品川区の小・中一貫校にヒアリングをしてまいりました。どのような工夫・課題があるのかお伺いしたものをご紹介したいと思います。</p> <p>まず和泉学園について。和泉学園は小学校棟と中学校棟が基本的には分かれています。2階の小・中の結節部分に1フロアで、一体的に広い図書スペースが用意されている状況です。その中の配置ですが、基本的には入り口から入</p>

ってすぐ、手前側に中学生専用の書架、奥に小・中共用の図書の配置があり、ある程度エリア分けがされています。

小学生については例えば本が多過ぎて目当ての本が探しにくい子、中学生については小学生の本と一緒にいるということで共用エリアに立ち入らなくなるといった課題があるので、配架上の工夫をしておっしゃっていました。

あとは、図書室が全体に壁などがなくて、奥で小学校、手前で中学校という形で同時に授業をしていると、声や動線が混ざる場合もあるので、その辺も運用上の工夫が必要になっているというお話は聞いています。

一方、司書は小・中で2人いらっしゃるので相談しながらできる。それから、小・中一貫校でもあるため、小学校のときから見ている子どもたちなので進行度がわかり、9年間の長いスパンで考えられる。

小学生については、中学生専用エリアは憧れのスペースになるようで、成長への憧れを持つようになるのがいいところとしてはあるのではないかと、というお話を聞いてございます。

品川区の学校ですが、こちらは富士見丘と同じように2つの棟が区道を間に挟んで分かれていて3階の路上橋でつながっているという、かなり似たようなハードになっていますが、路上橋でつながった先のところにラーニングセンターが一体的にあるということで、壁のない、よりオープンなラーニングセンターになっています。

書庫の分けとしては、1年生から4年生用と5年生から9年生用と分け、間に文学書のエリアを共用する形で、書架の高さを変えるなどして工夫をしています。ただ、小学生が高学年用図書のコーナーに行けないように特にはしていないし、貸し出し禁止や許可が要るということも特にはないと聞いております。

小学生でも発達段階はさまざまなので、より発展的な図書を読む子はどんどん読んでいくし、中学生用の本も手にとって読む子はいる。逆に中学生でも、調べもの学習などでは小学生向けの、より簡単にまとめられている本を手取り早く使ったりということで相互に利用するパターンはあるので、一体的にやっている意味はあるのではないかとのお話がありました。

声の問題などについては一体的になっていて、廊下も含めてオープンになって、声は漏れるのですが、そこは慣れの問題というか、それほど大きな問題にはなっていないと聞いています。

ポイントとしては、1つは動線の問題で、小・中みんながアクセスしやすい、利用しやすい配置を工夫する。あとは同時に使うときの音の問題をしっかりと整理して、お互いに使いやすいようにする。あるいは司書の方も複数いるということで、そこの連携もしやすくする。そういったところがポイントになっているのかなと捉えております。

この後説明していただきますが、こうした他事例での課題などを踏まえて、今回の富士見丘の計画に落とし込んでいただいたものが資料4でご紹介するプラン



	になりますので、ここからの説明は設計会社からお願いいたします。
設計事業者	<p>それでは、資料4の説明にまいります。</p> <p>前回の懇談会では、参考事例を通してイメージをお示ししました。本に囲まれ、伸び伸びとした空間から、知りたいと思う気持ちが芽生える話をいたしました。今回は具体的に計画してラーニングセンターを設計してみました。</p> <p>まずコンセプト、資料左上の部分です。改築基本方針に掲げた「小学校・中学校の一体的整備の利点を生かす」の具体化の一環として、小・中学校一体のラーニングセンターを設置します。本に囲まれた2層吹き抜け空間とすることで視覚的に一体感が出て、両校にとってのシンボルとなり、児童や生徒の探求心や知的好奇心を刺激し、発展的な学びにつながる空間を目指します。</p> <p>また大人数で利用できるスキップフロアを設けるなど、一体的整備ならではの多様な学習環境を提供しますというコンセプトを打ち出しました。そしてさらに、児童や生徒のアクセスのしやすさ、小・中両校の同時利用を考慮したしつらえや、転落・けが防止などの安全対策を考え、小・中どちらにとっても利用しやすく、管理がしやすい計画とします。</p> <p>今回ラーニングセンターの設計を考えるに当たりまして、具体的な配慮事項は5つございます。平面図を見ながら、順にご説明いたします。</p> <p>まず1点目の配慮事項は、気軽に立ち寄れる工夫です。小学生では日常動線に取り込み、道草感覚で気軽に本に触れ合うことができます。1階平面図の緑の矢印が小学生の動線です。昇降口から上がると、①のところに出てきて、さらに3階へはラーニングセンターを通過して階段を上ることになります。時計回りの回遊動線を取り入れて、移動しながら本の刺激を日々受けることとなります。</p> <p>また中学生にとっては公道をまたぐ渡り廊下を渡って、ラーニングセンターに行くこととなります。見晴らしのよい空間として、ここを通ることで気持ちのよさを利用し、ラーニングセンターへ誘い込みます。また、渡るとすぐ入り口があり、遠さを感じさせない工夫をしております。</p> <p>2点目の配慮事項は、授業中での調べ学習のしやすさです。特に、特別教室で教える教科での調べ学習がすぐできるように、ラーニングセンターを取り囲んで特別教室を配置します。2階は音楽室、図工室。3階では中学校の理科室2教室、小学校の家庭科室、多目的室を配置して、疑問が生じたらすぐラーニングセンターで調べることができるようにしました。</p> <p>また同時利用に配慮して、2階が小学生のエリア、3階が中学生のエリアに分けます。そしてそれぞれの階にはガラスの壁で囲まれた閲覧室があり、クラス単位で小・中同時利用が可能になります。</p> <p>また階段で同じ空間がつながっているため、小学校高学年の児童が3階の中学生ゾーンに気軽に行き、興味があることに関して調べることができ、さらに深い学習が可能になります。</p> <p>ラーニングセンターを取り囲む外側を展示スペースとして活用し、学んだ知</p>

識を発表できるようにします。自分で考えて、自分で解決する自発的能力を高める場ができます。その例を次のページ、資料右下に示しました。行事やイベントの展示に使ったり、理科・算数・英語など教科ごとの成果の発表に使ったり、そういう使い方が可能になると思います。

続きまして3点目の配慮事項は、児童や生徒の居場所づくりです。好きな場所で好きなことができる居場所を提供します。1人で調べたいとき、数人で一緒に並んで本を読みたいとき、畳の上で本を読みたいなど、自分のスタイルでストレスなく本と接することが大切と捉えました。

そこで、AからEの5つの提案をいたします。例えば静かに本を読みたい場合は閲覧室です。2階、3階の図の下側のAの部分に設けました。ここではガラスの壁で音を遮断し、光や周りの活動は見せて、みんなとの一体感を感じる場とします。

スキップフロアでは、L形の4段から構成されたスペースとなります。図面では2階の右側、Bの部分となります。2枚目のイメージパースでは、②をご覧ください。このように、自分の好きな高さの段で本を読み、気の合った友達と並んで本を読むことができます。このパースの右側です。

資料2枚目の上の段にスキップフロアの利用のタイプを記載しました。この図の上のところですが、大人数、例えば140人（1学年分）ぐらいが集まって発表ができるスペースを確保します。また、絵本を可動式書架に置いて、低学年への読み聞かせができるスペースとしての利用も可能になります。

ここでは、畳のベンチや円形の隠れ屋を置きます。図面では2階のC、Iの部分です。こちらのイメージパースでは、②の真ん中のところに当たります。これらは小学校低学年の専用スペースとして、児童の居場所づくりに貢献します。

カウンター式の閲覧席を3階のスクールモール側につくります。イメージパース④、図の左から2番目です。3階平面図で言いますと右側Dの部分ですが、1人で集中したい場合は居心地のよい場所になります。

新刊のディスプレイは司書カウンターを利用します。図面では、Fの記号で示した円形のカウンターです。イメージパース①、画面の左側をご覧ください。低学年向けには立ち上がりの壁に本を立てて並べます。高学年向けには司書サブカウンターに並べて、子どもたちへわかりやすく発信します。高学年向けのイメージパースは③、画面の左下になります。

4点目の配慮事項は管理のしやすさです。小・中一体整備の特徴を生かすために司書が連携しあうよう、メインカウンターは2階に設置します。ただし、放課後の利用者が多い時間帯では、3回の中学生用のサブカウンターへ移動し、身近に対話ができる距離感を保ちます。

本棚が多く、図書の分類の表示についてはわかりやすいサインを本棚に埋め込む形とします。どこからも見やすい工夫とし、その事例が資料の右上に示した図になっています。こちらの画面で言う右上のところを示しています。

	<p>5点目の配慮事項は安全性の確保です。安全性を確保して、吹き抜け部分には十分な高さの手すりを設置します。また、児童や生徒の転落によるけがを防止する対策を行います。</p> <p>このようにして、富士見丘小学校・中学校にしかないオリジナルのラーニングセンターを構築いたしました。</p> <p>以上で、ラーニングセンターの説明を終わります。</p>
進行役	<p>ただいまご説明いただいた点も踏まえて、先生からコメントをいただきたいと思えます。</p> <p>先生、よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>今、区側と設計事務所からお話をいただきましたが、皆様どうでしょうか。前回のこの会議でいろいろと疑問が出たり、あるいは希望が出たり夢が語られたりしたところを、その後学校・区側と設計事務所でもかなり綿密に協議して、ここに至るまでもいろいろな案がきっと出たと思えますが、今日お示しいただいた案で、かなり煮詰まった段階かと思えます。</p> <p>議論のテーマはいろいろとあると思えます。まずもって、子どもたちの教室がどうであるか。あるいは前回も話題になったプールの問題はこういう解決でよいのかどうか。それから、地域住民側から見て学校活用がしやすいかどうかという問題もあると思えます。</p> <p>さらに前回も、今日のご説明でも一番大きいのはラーニングセンター、図書館の取り扱いで、基本的に一体的につくる利点を生かすという前回の基本的な方向に沿いながら、しかしいろいろな心配があるだろうということでご意見をいただいたわけで、それらがうまく反映されているかどうかというあたりもぜひ、皆さんの意見、感想、あるいはさらなる要望を出していただけたらいいと思えます。</p> <p>今日のこの機会を経て基本設計がほぼ固まって、次の段階では今日の意見をさらに事務局側と設計事務所でもしゃくして、当面の最終的な案にたどり着くのではないか。この辺は、また後でご説明はあると思えますが、限られた時間ですが、十分意見を言っていたいただければと思えます。</p> <p>以上です。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。</p> <p>かなり具体的な計画案が出てきております。先ほど事務局から話がありましたが、計画をそろそろきちんと固めていく段階にあるということですので、この機会にぜひ、皆様のご意見あるいはご感想をお伺いしていきたいと思えます。</p> <p>前回も同様でしたが資料の読み込みが、情報量が多く大変かもしれませんので、ここで5分ぐらい時間をとりたいと思えます。資料を読み込んでいただいた上で、ご質問・ご意見等をいただきたいと思えます。</p> <p>では、よろしくお願いいいたします。</p>
	(査 読)

進行役	<p>それでは5分ほどたちましたので、まだ見切れていない部分もあるかもしれませんがご意見・ご質問、または感想でも結構ですので、できるだけ多くの方にご発言いただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>図書室のお話が多くなると思うので、それ以前のお話を先にしてもよろしいですか。</p> <p>前回もそうでしたが、普通教室を全部南向きにしていただいて、とても環境がよくなったと感じております。ただ4学級になるのではないかという不安はすごくあるので、そこが心配ですが。</p> <p>今回一番お話ししたいのは、まず児童の安全面というところで1階昇降口、中学校も小学校もすぐ横に主事室があって、さっき出入りの管理をされるというお話がありましたが、実態として主事の仕事は、校舎内外の環境整備、掃除や軽微な修理等なので、ほとんど休憩時間しかいません。その点は、事務室の事務さんが常時いるということで、事務がいてもらうといいと思いますが、不審者対応などを考えたときに昇降口のあたりが無人になってしまうので、心配に思いました。それが1点。</p> <p>それから階段の件ですが、これは本校の例で、各学年の教室に行くのに低中高2学年ずつで1つずつ階段があるので、専科教室に行くには差しさわりはないのですが、階段は3つとも幅が狭いです。体育館に行くとき1つの階段に集中してもものすごく時間がかかるのと、それからすごく混雑して、6学年が全部動くことになると大変危険なのです。この図面を見たときに、昇降口に入ってからホールのところにある階段の幅がどれくらいなのか。少し狭いように見受けられます。</p> <p>そして2階、3階に上がるのに学年を分けて、奥の給食室前の階段がどんな形なのか。こちら児童が普通に使う形になると思いますが、こちらの階段と分けて使う形になるにしても、階段が2つだけであれば幅が広めの階段にしないと、3学級規模、あるいは4学級の学年が出てきたときには、かなり混雑するのではないかと思いました。</p> <p>それから給食室、調理室からエレベータで多分、各教室にワゴンで給食を配食する形になると思います。本校の場合も同じで、エレベータで運びますが、そのときにワゴンが結構並びます。この図を見ますと、階段を超えたところのエレベータ前に並ぶ形になって、一番並ぶ時間帯には6～7メートルを超えてワゴンが並ぶ形になるので、このスペースが心配に思います。</p> <p>並んだとき階段が通りづらくなってしまわないかと心配で、エレベータの位置が、例えば配膳室に隣接したほうがむしろいいかもしれないと素人の考えですが、ちょっと感じます。エレベータホールも、少し余裕があったほうが安心だと思います。</p> <p>それから1階、小学校の職員の更衣室ですが、どの学校もおおむね女性教員がかなり人数は多いと思います。2対1ぐらいの感じだと思いますが、なぜ男</p>

	<p>性更衣室を広くするのが世間の通例になっているのか。</p> <p>本校も男子更衣室のほうが多く配置されていましたが、私が着任してから交代しました。女性のほうがあふれてしまって、男性は1人で2つ使っている状況があったので、そういうあたりは現実的に考えていただいて、男性優位の考えが出ているのではないかと感じてしまいます。</p> <p>プールですが、2つつくっていただいて、低学年用には安心したプールの構造になっていると思いましたが、ただ3～4年生、特に4年生あたりには、泳力的に25メートルを通常どンドン泳がせたいと考えているので、小さいプールではちょっと不満足に思います。</p> <p>1～2年生入門期の水遊び程度のプールを4年生まで使うのは、できれば大きいプールでさせたい。そのとき時間割上うまく入っていけばいいと思っています。</p> <p>以上です。</p>
進行役	<p>今、5点ありました。いかがでしょうか。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>最初の昇降口の管理についてですが、確かに事務室で受付機能を持たせるか、主事室で持たせるかというところで学校さんとも相談させていただいて、職員室との位置関係などがあり、やはり事務室・職員室の連携とのバランスで、今回のプランでは主事室にそういった機能を持たせる案に、今の段階ではなっています。</p> <p>給食のワゴンについては、配膳室の前のスペースに並べる形で、個別の配膳室や洗浄室の形等を学務課と調整していますが、今回中学校棟にも配膳しなければいけないということで、エレベータの形や大きさもきめ細かく調整していて、配膳については支障が出ないように、エレベータの前に並ぶイメージよりは配膳室にスペースがあるという形で考えています。そこは学務課ともさらに協議中ですので、支障がないように調整したいと思っています。</p> <p>職員の更衣室については男尊女卑の考えではありませんが、結果的にこういう形になっていますが、学校とも相談させていただいて、具体的な部屋の大きさなどはまた調整させていただきたいと思います。</p> <p>プールについては、中学年、3～4年生にはどうなのかということも確かにありますが、一回り小さいと言っても、18メートル程度はあること。それからフルに小・中学校、18学級12学級となると、メインプールを中学年が使うのは時間的に厳しい面があると思いますが、当面といたしますか、クラスの割合によっては中学年についても25メートルプールを使うなどの運用は可能だと思っています。</p> <p>階段の幅はわかりますか。</p>
設計事業者	<p>2メートルちょっとと考えています。今後検討します。</p>
委員	<p>全体で2メートルちょっとですか。</p>

設計事業者	片側だけです。
委員	<p>階段は上りも下りも一緒ですか、2メートルということですか。2メートルというのと、多分うちぐらい狭い階段だと思います。</p> <p>大体、1クラス2列で行き来することが多いですが、2列と2列で行き違うぐらいで、かなり狭い階段だと思います。もうちょっと広げられないですか。</p>
教育施設計画施設担当係長	ご意見をいただいたので、混雑して時間がかかるようだと、学校に支障が出ると思います。計算をして……。
委員	避難のときとか、子どもたちも迅速に動かなければいけないと思いますし、うちも全校朝会を雨のとき体育館でやったときは、全部が教室に入るまでに10分近くかかります。外の階段も使うようにしますが、雨では使えないので。
教育施設計画施設担当係長	そのあたりも計算して、適切な幅を検討したいと思います。
進行役	では、どうぞ。
委員	<p>前回はお休みしまして、その中でラーニングセンターについての話を伺っていますが、先ほどの説明で第9回懇談会の主な意見、ラーニングセンターについて前半と後半で、前半のほうが分けたほうがいい意見、後半のほうが一体型でいいのではという意見で、その中で上の意見の中に、例えば2番目から中学生による小学生への読み聞かせなど、先ほどの説明でよくわかりました。実際に見学に行ったところの例も出していただいて、和泉学園の話も伺って、この意見については解決できたと思いますが、一番上の小・中別々がよいのではないかの部分についての回答はいま一つというか、自分もまとめようと思って調べてきたのです。一体型と別々は功罪いろいろあって、それぞれもちろん100%はあり得ないので、どこかで落としどころを考えないといけない。</p> <p>今回説明の中に一体型が2つ例で出されていますが、自分は別々の部分も調べてきています。普通説明のときは一体型のもので別々のものを比較して、こうだという話が、こういった質問にはわかりやすいと思いましたが、なぜ一体型だけを調べてきて回答したのですか。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>前回もお話ししたとおり、昨年決めてきた改築基本計画の中で、ラーニングセンターや特別教室など、基本的には一体的整備の利点を生かして、共有できるものは共有しながらいいものをつくりましょうという中で検討してきています。</p> <p>前回のお話の中で一体型にするときの、小学生でも発展的な本を手にとってより関心を高められるなどの基本的なコンセプトを大事にしながら、では一体型にしたときにどういう課題があって、それをどういう形で工夫してやってきているのかを調べてきました。</p> <p>そういった意味で言うと、具体的には先ほど申し上げたように同時に使用するときやりにくいとか、管理が大変だとか、そういったところを非常に懸念されておりましたので、そういったところが工夫できるのではないかというこ</p>

	とで、今日はお示しました。
委員	前回出ていなかったのですが、要は別々の形は調べないというコンセンサスで話は終わったのですか。
教育施設計画施設担当係長	一応、先生のほうに最後、我々も一体型という形で3つの案を示した中で、これで行きたいというお話は教育委員会からもさせていただいて、いろいろと宿題はいただいたものの、こういうメゾネットのような形で行くということで、最後はまとめていただいたと思っています。
委員	<p>それは自分が出ていないので認識不足なのだと思います。例えば先ほどの説明の中で、1番の「気軽に立ち寄れる（利用頻度の向上）」の中で、小学生が登下校の日常動線からアプローチができるというのはとてもよくわかりますが、中学生のほうは気持ちのよさで動線として入れるという、意味合いが全然違いますよね。気持ちのよさというのはどちらかというと抽象的な意味合いですので、その部分が具体的な話になっていないと思いました。</p> <p>実際に資料として、図書館の利用頻度については単純な図書館の蔵書や面積よりも、配置の影響が大きいというデータがあります。これは、遠くなると利用したくないという意見がとて多くなるという実際のデータなのですが、一体型はどこかにつくらなければいけませんから、多分真ん中だったらいいのかもしれない。ちょっと小学校寄りということかもしれない。</p> <p>前回の話を蒸し返すつもりはないので、ただ、自分は最初にせっかく小学校と中学校が一貫校でなくても隣同士になるから、近いところに小・中がいるメリットも生かしてほしいという意見も出しました。それが多分このコンセプトになっているかもしれないので一概に非難ばかりしたいとは思いませんが、遠くなると利用頻度が低くなる事実があります。</p> <p>それは小・中学校を調べてみて、蔵書がいっぱいあるところ、蔵書が少ないところ、蔵書がいっぱいあっても距離が遠いところ、蔵書が少なくても距離が近いところの全部を調べると、蔵書が少なくても近いほうが利用頻度が高い事実があったりするので。</p> <p>ただ、小・中学校で明確に違うのは、学年が上がるにつれて児童・生徒の居場所は教室に集約されていって、読書量も低下していくという事実もある。小学校は本を読む習慣みたいなものもあって、絵本も含めて、低学年はものすごく図書館の利用率が高いのです。小学校と中学校だと小学校のほうが図書館の利用率は歴然として高いという事実もある。</p> <p>中学生は最初は図書館も居場所にしますが、データの的には教室がだんだん居場所の主になっていきます。教室に居にくい子は保健室か特別な部屋を利用する頻度が高くなっていきます。</p> <p>そういったデータもありますので、実際につくった企画、活用の中で小・中学校で一体化して、何かイベントみたいなものでジョイントできるものをつくるか、司書もいるのでそういうことも可能なことだと思います。それは一体型でないといけない。別々だと到底できない。</p>

	<p>今の段階になって別々にはできないという話ではなく、一体型でやるという話であれば、その欠点を補うほどの利点があるみたいな感じで話を進めていけばいいと思います。そんなところで、私の意見としては集約しています。</p> <p>ですから一体型に一概に反対ではありませんが、事実として距離が遠いと利用したくないという意見は多いです。それは中学生にいっぱい出ています。</p> <p>あと中学生が図書館を利用しない理由は、図書館は利用期限があるので、中学生になると自分の読みたい本を買って読むようになるというデータがあります。ですから、高学年になっていくと、自分が好きな本を図書館ではなく実際に古本屋で買う率が高くなっているという事実があります。</p> <p>私の意見は以上です。どうしてほしいというわけでもありませんが、できればみんなが納得した形でつくっていききたい。子どもたちに胸を張りたい。自分たちが話し合いに参加して、自分たちの意見もきちんと言って、こういうものができたということを胸を張って言いたいので、そこのところをみんなでうまく集約していただければと思います。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>アクセスの問題は根本的なところなので、例えば前回も教職員との連携の点から、職員室に近い方がいいといったご意見も出ていたと思います。</p> <p>正直難しいところはありますが、今回中学生の子どもたちの気持ちに立ったとき、ほかの学校でも意見として言われているのは、小学生のエリアのところに行って図書室に行くというのが、心理的にもハードルが高くなるということも聞いています。前回のプランですと、小学校の普通教室の前を歩いて入り口に入って行くプランになっていましたが、今回そこは改善してまして、渡り廊下を歩いて小学校のエリアに行く手前に中学生専用の入り口があって、しかも3階については、基本的には中学生と5～6年生が使うフロアにしてという形で、ある程度心理的なバリアはハード的にも多少工夫しました。</p> <p>それと一緒にすることのメリットと言う意味では、先ほど設計会社からも説明がありましたがスキップフロアという、1学年ぐらいがまとまって集まれるフロアをつくって、全体で発表や調べもの学習、絵本といったものにも活用できるスペースを設けられているところは、一体的に整備するハード的な意味での工夫をしたと思っています。</p>
委員	<p>そのほかはいかがですか。</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>小学校の2階が南向きでくし形になって、屋外テラスがついています。それが吹き抜けということで3階の平面図がありますが、人が落ちることはないにしても、上から物を誤って落としてしまうという安全上の懸念があります。これは窓を開けると、そこが吹き抜けの空間になるというイメージですね。</p> <p>3階の南向きの窓を開けると、そこは吹き抜けの中空になるわけです。そこからペンなどを間違えて落として、2階の子がテラスにいたときに、上から物が降ってくるみたいな心配はないのか。</p> <p>もし採光を考えて吹き抜けということで、例えばガラスの天井にしたとした</p>



	ら、どうやって掃除するのかとか、いろいろと思いますが、2階、3階の吹き抜け部分の安全面の対応をお聞かせください。
設計事業者	<p>お答えしますが、吹き抜けは外部みたいなもので、基本的にはガラスで囲んであかないようにすることを前提で考えております。というのも、これは採光を主目的に考えていますので、中学校の2階のところは上から光を落とすためです。</p> <p>ご指摘のように、一番下の掃除には行かなければいけないので、それは何か点検口などをつくって、施錠管理することにはなると思います。</p> <p>小学校については、屋外テラスの上には窓がありますが、基本的には開放制限で10センチぐらいしかあかないようにします。</p>
委員	10センチでもペンは落ちますよね。
設計事業者	<p>それはそうですが、窓が全くあかないのは通風の話があるので、春や秋についてはできるだけ冷房は使わないほうがいいところでは換気効果を高めたいと思いますので、全てフィックス、はめ殺しの窓も可能ですが、それはそれで少し、環境配慮の面では安全性と逆行してしまい、難しいところです。</p> <p>ですので、開放制限を5センチにすればいいとか、大きさについては、今後まだ検討する余地はございます。</p>
委員	小学校棟2階の屋外テラスは出られますね。
設計事業者	2階の屋外テラスは出ることが可能です。
委員	出て、そこで活動して、上があいていて、10センチの窓から何か落ちる可能性はあるという話をしているのです。
設計事業者	全くないとは言えないので、物を落としたり、そこからというのはあるかもしれません。
委員	人は落ちないでしょうけれども、そこがちょっと……。
設計事業者	<p>出入り口を限定して、庇を少し出すなどは可能なので、落下物に対して保護をする対応はできると思います。</p> <p>このテラスは全てのところから出られるわけではないので、出る場所を限定すればいいと思います。教室から屋外テラスに出る場所を教室の一番後ろだけにするとか、そうしたときに上に庇が出ていれば、ものが落ちたときに安全性をカバーできますから、そういう対応をすればいいと思います。</p>
委員	雨が降ったら濡れますね。
設計事業者	ここは基本的に雨が降ると濡れる場所です。屋外ですから。だから、屋外テラスということです。
委員	教員は常に吹き抜け箇所の安全管理に気配りをするということですね。
学校整備課長	<p>最近区で開校した桃二小、高円寺学園もかなり大きな中庭をとって、窓も当然あります。同じように物を落とさないように開放制限をする。</p> <p>あとは学校の指導のところ、窓際で物を持ってやりなさいということは指導の中では当然しないので、そうすると本当にはめ殺しかという換気の問題</p>

	<p>もあり、どうなのか。あけられるようにはするが、5センチがいいか10センチがいいかは別にしても、学校指導の中でも物を持って窓に行って意図的に、故意に落とすということは別な次元の問題になるので、我々としては設計者の意図は、採光の面でこういうのを採用したらどうですかというものになります。</p> <p>ご指摘のことはあります。同じように桃二小や高円寺でも開放制限をかけて、物が下にダイレクトに行かないように、指導の中でもそうしてやっている現状があります。</p>
委員	<p>小学校と中学校のプールですが、これは小学校の中学年、あるいは高学年の子どもたちが25メートルを使いたい場合、中学校のプールを借りに行くことができますか。そのとき中学校が体育の授業で使っていることも当然あります。</p> <p>あるのかどうか教えていただきたいのですが、今はプール大会みたいなものはありますか。運動会のプール版みたいなものです。</p>
進行役	<p>富士見丘ではやっていない。区内でもやっているところは少ないです。</p>
委員	<p>私も全く泳げなくて、1～2年生のころは水深の浅いところで水遊び程度のことをやっていましたが、4年生の夏休みぐらいから大きいほうで泳ぎたいという気持ちになり、大きいほうも斜めになって浅いところと深いところがありますよね。</p> <p>浅いところで一生懸命練習して、少しずつつま先立ちしながら深いところに行けるようになって、その夏それをやったおかげで、ついに25メートルを泳げるようになりました。当時は父兄も見に来るプール大会があって、先生に褒めていただいて、半世紀を過ぎた今でも自分の活動力になっています。</p> <p>そういう意味で、小さいプールをつくるのはとてもいいことだと思いますが、25メートルプールにすぐ行ける環境を確保できるといいのではないかと、自分の体験から思う次第でございます。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>先ほどの回答とかぶるかもしれませんが、小学校高学年が中学校のプールを利用する場合には、曜日等で分けて利用調整して時間割を組むのが前提で、そのような形であればクラス数が最大になる時期があったとしても、時間割的にはおさまるのかなということと、今回いろいろな配置を検討しましたが、小学校棟の上に2つのプールという形も検討しましたが構造的な問題、建物にかかる負荷等の課題があってそういう形ができなかったということで、中学校棟の4階にメインプールを配置した。</p> <p>ただ、小学生が中学校棟に行く動線なども配慮してまして、渡り廊下を渡ったすぐのところに階段がありますが、そちらからすぐ4階に行けますので、そういった意味では中学校の普通教室などにも影響のない範囲で行き来できる形には工夫しています。</p>
委員	<p>感想も入りますがプールの件ですが、実際に縦が18メートルというのは非常に悩ましい。数的に20メートルあれば楽。検定だとそうです。ただ、構造上これが限界というならいたし方ない。</p>

	<p>要するに、小学生の場合には検定条件というものがある、端から端だとかそういう形。ゆくゆくは25メートルということを考えてみると、18メートルという曖昧な数字よりはそのほうがありがたいということ。</p> <p>サブプールの図面を見ると、向かって左側に階段みたいなものがある、それで入れるという形であるなら、これはちょうど真ん中が一番水深が深いという形で設けていますが、それこそ1～2年生の水遊びを考えてみれば、ただ人数が多くなるといろいろ出てくると条件は違ってきますが、この階段のところを一番浅くして、それから逆側が深いというほうが、指導上は非常にやりやすいと思います。</p> <p>私も小プールと大プールがあった学校で、小プールは入り口のほうが確実に浅かった。奥に行けば行くほど深くなるという形でした。そう言ったところで、小学校の25メートルプール1個の場合には端に座らせて、号令とともに入る順番ということもやっていますので一概にそれがいいとは言えませんが、こちらに階段がある、中にそのまま入れるなら、奥が深いほうが便利なのか。あくまで感想です。以上です。</p>
委員	<p>プールのことで。</p> <p>本校のプールですごくありがたい点が1つあって、うちも3階の上にあるプールですが、見学者はどうしても出ます。学年でやるので10名ぐらい出ることもよくあります。そのときに見学者の子たちが座っている場所に屋根があって、日陰なので酷暑のときでもそれほど心配せずに、風通しもよく見学ができました。</p> <p>ですから、風通しや遮光の面もあるとありがたいと思いますが、これは広さ的にはどこまでがどうなのか。目隠しのラインが壁のようになるのか、その辺がわからない。</p> <p>あと、シャワーからの動線を上手に考えられるといいと思っています。小学校のプールも、こちらのメインのプールもそうかもしれませんが、大体が男女分かれて、小学校だと両側に並んで入る形をとります。そのときに、シャワーのあるほうが動線的にどうなのか。タオル掛けを置いて、そしてまたシャワーに行っていくあたりで、動きやすい動線にもう少しご配慮いただけたら大変ありがたいと思って、お話を伺っていました。</p> <p>以上です。</p>
進行役	<p>ありがとうございます。</p> <p>プールに関しては、あとは特によろしいですか。</p>
設計事業者	<p>今、点々を描いているところは立ち上がりの壁が2メートルぐらいついていて、部分的に日よけの底をつけております。記載はしていませんが、ひさしをつける予定でおりますので、日射対策は行います。</p> <p>ただ、そこは面積の話がございまして、それは全体の延床面積からの話なので、調整が必要でございまして。</p> <p>シャワーの位置については今後設計を詰めていきますので、検討してまいり</p>

	ます。
進行役	物理的にプールが20メートルになるということは、かなり厳しいですか。
設計事業者	スペースが狭くなるだけで、つくことは可能なので対応できます。
進行役	対応できる。小学校の勝手にわからないですけども。
教育施設計画推進担当係長	先ほど検定という話もありましたので、検討したいと思います。
進行役	よろしくお願ひします。 そのほかはいかがですか。
委員	小学生のラーニングスペースのフロアは2階ですが、4番の「管理のしやすさ」の、1の死角をつくらないようにということから考えると、円形の隠れ屋はかなりの死角だと私は印象として思いました。 それで、高さを1,300ミリメートル以下としますが、子どもたちは座ってしまえば完全に見えなくなると思ひますし、小学生には120センチぐらいの子もいますので、もし円形をつくるのであれば1段にして、上から大人が覗けば明らかに何をしているかが見えるようにしないと、担任の先生と司書さんの管理はすごく神経を使わなければいけなくなると思ひます。
設計事業者	多分向きだと思ひます。司書さんから切れ目が見えるようにすればいい話で、そのぐらいの工夫で十分対応できると思ひます。 あと我々はこういう、デンという形で狭い空間をつくりますが、子どもたちは競ってそこに入りたがると思ひますか、狭いところは好きなのです。そういうところをなくすと今度は来なくなるので、これは実は重要な装置だと考えています。ですので、管理がしやすい向きに変えれば可能だと思ひます。
委員	でも、隠れてトラブルということも絶対あり得るので、両面を考えたほうがいいのではないかと思ひます。
委員	今、3段書棚がありますが、2段ぐらいでもいいかもしれない。中で寄りかかって読めるとか。
設計事業者	あとは部分的に穴をあけて、向こうが見えることなどが必要と思ひます。
進行役	そのほかはいかがですか。
委員	ラーニングセンターはすごく魅力的な場所になっている。一体にしたからこのスペースが確保できた。別々にして小さいのが2つできてしまうというつまらなさに比べるとすごく夢があって、子どもたちがわくわくする空間になるかなと。 パースの写真が広く見えてしまうということもありますが、実際に子どもが入って、「新しくなった」とわくわくすることが新校舎のだいご味というか、その要素は絶対になければいけないと思ひるので、既存の図書室ではないものができ上がると思ひると、とても楽しみです。
委員	ありがとうございます。 いかがでしょうか。

委員	<p>私もラーニングセンターは魅力的だと思いましたが、先ほどお話もありましたが、中学生が小学校棟に行くハードルの高さはすごくあると思います。</p> <p>これは設計ではなく運用上の話になるかもしれませんが、例えば中学生が家庭科室を使うかはわかりませんが、そういう日常的に行って、小学校棟に行くハードルの高さを低くする工夫を、設計上でも運用上でも何か1つあると、ふだん行かない子でも行ってみようかなという形で、行く子が増えるかなと思いました。</p> <p>カウンター式の閲覧コーナーはすごく魅力的で、中学生が勉強したいとか、ここで1人で静かにという子にとってはすごく魅力的なスペースであると思うので、そうではない子が行ける、嫌いな子が行くのがハードルが高いと思うので、何か工夫があるといいのかなと思いました。</p>
進行役	<p>中学生が足を運べるような工夫、ソフトの部分も多分大きいと思います。そういう工夫を運用で考えていければということでしょう。</p>
設計事業者	<p>家庭科室は小・中学生共用ですので、日常的に通うことになります。今、こちらのパースを大きくしていますが、これがスクールモールに面した閲覧のカウンターです。少し大人びた空間にして、中学生が澄ましてここで過ごすというふうな、そういう空間がいいのかなということと、後ろが本棚ですから、すぐ本を手にとって読める空間。</p> <p>もう1つは、スクールモールが見えることです。誰にも邪魔されない空間、前には誰もいないということになるので、こういう空間も必要なのかなということで提案しました。</p>
委員	<p>この絵だともう少し柵が高いほうが安全な気がします。柵と感じられないようにして、高くしていただいたほうが。</p>
学校整備課長	<p>これは何メートル。</p>
設計事業者	<p>1. 3メートル。</p>
委員	<p>1. 3メートルは、中学生だと結構危ないと思います。見た感じ、感覚的に怖いと思います。こうなると、もう絶対にできますから。こういうふうのできるのです。</p>
委員	<p>アクリルで覆ってしまうと通気性が悪くなると思いました。</p> <p>ついでで申し訳ありませんが、図書室の40人入るスペースの間仕切りがガラスと書いていますが、完全にガラスですか。</p>
設計事業者	<p>ガラスのほうが、先ほど申し上げたように閉じた部屋にしないで、音を遮断するけれども、にぎわいとか、そういう視線はとったほうが良いと思いますので。</p>
委員	<p>音を遮断するのと開放感で、ガラスでない。今はアクリル素材も進んでいますが、結局何か起きたときにガラスが割れたりとか、今は加工されているガラスが多いと思いますが。</p>
設計事業者	<p>ガラスは飛散防止フィルムを張ることと、強度のある強化ガラスを使います。</p>

委員	これで耐震にもなっているということですか。
設計事業者	大丈夫です。
委員	高井戸第二小学校の職員室のは透明ですよ。あれはアクリルですか。
委員	ガラスだと思います。
設計事業者	アクリルは傷がつきやすいことと、紫外線が当たると劣化しやすく、すぐ黄色くなってしまいますので、耐久性という意味ではガラスは劣化しません。あとは安全性だけなので、安全性については厚みとフィルムです。割れるというのは、実は溝の幅をちゃんと確保するとか、地震時にガラスが逃げる場所をつくってあげるとか、そういうことで対応できると思いますので大丈夫です。
委員	可動式絵本棚とありますが、これは自由に動かせるということですか。
設計事業者	自由に動かします。大きい絵でお見せします。これです。
委員	ちょっと心配なのが、地震になったときにぶつかってくるのかなと思ったので。
設計事業者	これは車輪ですが、ロックがかかるので大丈夫です。
委員	子どもが動かすものではなく、可動式というのは大人が自由に配置できる意味ですか。
設計事業者	そういう意味です。真ん中の畳も、動かして広い空間にすることも可能ということで。
進行役	レイアウトの自由度があるということですね。 ほかはいかがですか。
委員	ラーニングセンターのスキップフロアのところが階段式になっていて、ここを可動式の壁か何かで閉じた空間にできれば、小学校は演劇教育をされているので、その練習や発表、もしくは可動式の壁に映せるようになっていけば、そこで個別学習ができると先生が言っていました。
設計事業者	今こちらにスキップフロアの絵がありますが、実はここに映写スクリーンをやると、ここで劇場みたいになるので、そちらのほうがいいかなと考えています。ここに可動の壁を入れるとヘビーといいますか、天井に線が入ってきて、壁をどこに収納するのか難しい問題が出てきます。 オープンにできて、みんなが集められることを最大の目的にしたほうが使い勝手がいいということで、スクリーンでやれば、壁みたいになるので練習はできると思います。
進行役	ほかはいかがでしょうか。大体よろしいですか。 それではただいまの議題、基本設計素案についてある程度固めるということですが、おおむねご了承いただいたということで進めさせていただければと思います。 そのほか幾つか、プールの件などのご意見をいただきました。可能な限り取り入れていただけるよう、ご検討をよろしくお願ひしたいと思います。

	<p>では、次第の4「今後の進め方について」、事務局からご説明をお願いします。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>資料5「今後のスケジュール（予定）」をご覧ください。</p> <p>今後は基本設計の取りまとめをいたしまして、年明け1月ごろ「大規模建築物に係る説明会」を開催する予定でございます。こちらは、対象は近隣にお住まいの方中心になると思います。今日いただいたご意見、それからこの説明会でのご意見なども踏まえまして、基本設計の取りまとめを年度末ぐらいに行いたいと思いますので、おおむね取りまとめた段階で、次回第11回改築検討懇談会、年度末ぐらいになると思いますが、開催したいと思っています。</p> <p>来年度につきましては、4月からの実施設計を経て、令和3年度からはいよいよ小学校棟の建設工事ということで進んでいく予定でございます。</p> <p>改築検討懇談会については、基本的には基本設計までということにしていますので、次回第11回が最終回となると思っています。</p> <p>そのほか、今後建設工事までを含めますとまだ長いプロジェクトでございますので、改築かわら版を適宜配布いたしまして、周知を行ってまいりたいと思っています。</p> <p>簡単ですが、今後のスケジュールは以上でございます。</p>
進行役	<p>今、今後の進め方についてご説明いただきましたが、この件に関してご質問・ご意見があればいかがでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>1月と5月の説明会と2つ予定されていますが、いずれもどちらかというとな隣の方々へ、交通の問題は起こさないとか、日陰の問題もクリアーできています、ぜひご理解くださいということで、よりよい学校をつくるためにみんな頑張っていますという趣旨の説明会に必ずしもならないと思うので、3月でも5月でもいいですが、どこかでほぼ固まった案を、土曜日やお休みの日も含めてどこかで公開して、どうぞご自由にご覧くださいとパネルにして、地元あるいは保護者の皆様が見て、場合によっては事務職の方1～2人がいて質問に答えるとか、せっかくだいいものが実りつつあるので、地元の方々がよく、楽しみだと言ってもらえる機会があったらいい。この説明会は、それには向かない気がするので、これは事務局でご検討いただきたい。</p> <p>あとは、現在の小学校やPTAの方々にはいずれこの学校に進む、中学もできるらしいということで、前から話題に出ていましたが子ども、あるいは生徒参加の、僕たちの言ったことを取り入れてくれているみたいだ、あるいはこういうふうで楽しみだという、地元とは別の機会も、圧縮したスケジュールで難しいでしょうけれども、学校とも協調して考えていただけたらというのが希望です。</p>
教育施設計画施設担当係長	<p>保護者の方々へのお知らせ、あと子どもたちの参加も、学校とも相談して検討していきたいと思っています。ありがとうございます。</p>
進行役	<p>そのほかはよろしいでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p>

委員	<p>こういう配置図を見ているとつい勘違いしそうになりますが、小学校棟と中学校棟は完成に時差があります。そこを住民説明会できちんと理解していただかないと、一緒に両方が建つイメージでつい図面を見てしまいがちですが、小学校が先にできて中学校を更地にしたときに、生徒は現在の富士見丘小学校の建物に通学するという点を誤解のないように丁寧に説明していただければと思います。</p> <p>最初のうちは、ラーニングセンターも小学生だけが使い放題な状態が何年間か続いて、給食室も小学校の分だけをつくっているのが何年間かあって、そこから中学校が建ったときには倍になるという、そのイメージが、図面だけを見ていると時差が感じられないので、そこはしっかり伝えていただければと思います。</p>
学校整備課長	<p>今ご指摘があったように、その前に高見澤先生もおっしゃったように、保護者や子どもたちにどう伝えてやっていけばいいのか学校とも調整して、その辺はやりたいと思います。</p>
学校整備担当部長	<p>本日はお忙しい中集まってご議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>幾つか宿題をいただきましたので、しっかりと検討して成案に結びつけていきたいと思うのと、何と言いましても、前回7月にラーニングセンターを中心にさまざまなご意見をいただいて、それを何とか実現させようとあの手この手を駆使して、設計事務所の皆さん、あるいはほかの学校にも見に行き、我々も研究をしました。</p> <p>7月に皆様から、特にラーニングセンターを中心にたくさんのご意見をいただいてよかった。この場でそういう認識を持っています。皆様と協議しながら、このラーニングセンターだけではなく、ものをつくっていくのはきわめて重要だと、そういった感想を持つものでございます。</p> <p>今日はさまざまなビジュアル的な資料をつくりましたが、実は7月に皆様との話し合いの後、教育長に富士見丘の進捗状況を説明したときに、ラーニングセンターが1つの課題になっていることをご説明したら、ぜひビジュアル的な資料をつくって、皆様にご説明しろと、これは教育長のアイデアです。確かにわかりやすい。紙だけではなく、こうやって映すとなおさらです。そういったことも含めてきめ細かくご理解をいただきながら、これからも進めていきたいと思っています。</p> <p>今ちょうど日本中でラグビーが大変盛んですが、最近いろいろところで挨拶をするときにラグビーを話題にしてしゃべっています。今日思ったのは、日本はもう負けてしまいましたが、ラグビーは私も知らないで初めて勉強していますが、フォワードは100キロを超える体重の男たちがいて、バックスはどちらかというと足の速い人たちがいます。両方がうまくかみ合わないとな勝てない。</p> <p>学校づくりも同じような気がして、例えば今ハードを皆様で、どういう学校にしようというのは、ともすれば最初ですからフォワードの役目かもしれない。</p>



	<p>いい学校をつくりました。でも、それだけではいい学校にはならない。最終的に、この学校ができてどう運用していくのか。</p> <p>どうやって図書館に中学生を呼び込むのか。先ほどもお話がありました。どうやってこの学校を運用して、魂を植えていくのかというフォワード以外の仕事がないと、点がとれない。</p> <p>そういった意味で言うと、まさに学校づくりとは単に物理的に建物を建てるだけではなく、そういった運用を含めて、逆に我々は今ハードづくりをしているわけですから、運用しやすい学校をつくっていくことは当然です。</p> <p>そういう2つが連携して、富士見丘小・中学校ができていくという思いがしています。引き続き教育委員会と地域の皆様、それから学校も連携していい学校づくりを進めていきたいと思います。</p> <p>本日はまことにありがとうございました。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務連絡はよろしいですか。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>最後に事務連絡だけ。会議録は、前回と同様まとめましたら送りますので、ご確認をお願いできればと思います。</p> <p>今回は先ほど申し上げましたとおり年度末で、最終回になりますので、ぜひご出席のほどよろしく願いいたします。</p> <p>私からは以上です。</p>
進行役	<p>それでは、これで第10回懇談会を終了いたします。皆様、本日はありがとうございました。</p>